

主な内容

特集——看護学部第1期生学びの集大成へ

トピックス——臨床研修医等宿舍新築工事の起工式が挙行されました

フリーページ——すこやかスポット看護学講座No. 1
「適切な電法（あんぼう）について」

表紙写真：臨床研修医等宿舍新築工事起工式で鍬入れを行う小川理事長
(関連記事p.6)



特集

看護学部第1期生学びの集大成へ

平成 29 (2017) 年度に開設した看護学部は、来年 3 月初めての卒業生を輩出します。看護学部における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、4 年一貫でカリキュラムが構成され、学生はすべてのカリキュラムを完遂するよう、複数の専門科目や臨地実習の修得に励んでいます。本稿では、看護学部の特徴、保健師・助産師の資格取得、臨地実習を終えた学生へのインタビューについて紹介します。

■ 看護学部の特徴

平成 29 年 4 月 1 日、岩手医科大学に看護学部が開設され、医・歯・薬・看護学部の医療系 4 学部が同一キャンパスで共に学ぶ日本で唯一の大学となりました。看護学部は、建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解し、看護職者として必要な知識・技能・態度を習得し、チーム医療や地域において活躍できる人間性豊かな人材の育成を目指しています。

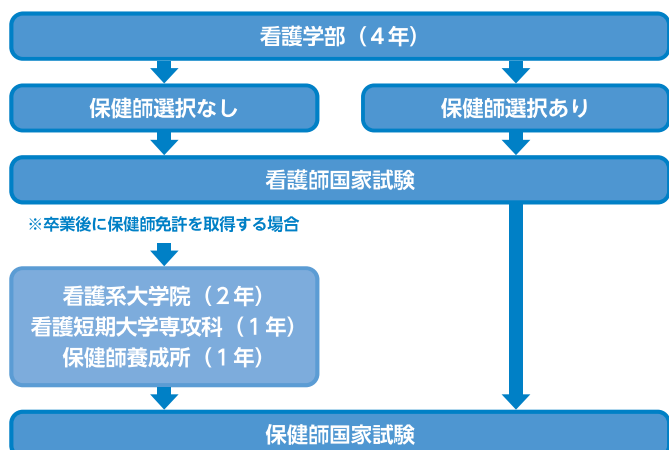
◆ カリキュラム

充実した教養教育を基盤として、医・歯・薬学部の教員や学生と共に学ぶことで、広い視野を持ち、科学的探究心にあふれた医療人となるようカリキュラムが整備されています。教育課程の編成は、教養教育科目群と専門科目群の大きく 2 つに分かれており、教養教育科目群は、生命の尊厳を重視する深い教養と豊かな人間性の形成を実現するために、一般教養に関する科目で構成されています。他にも、チーム医療と医療専門職間の連携を実践的に学ぶ科目で構成されている多職種連携教育が含まれています。専門科目群は、1 年次から徐々に高度な学修内容に繋げていくよう編成され、4 年次終了までに看護者に必要な専門知識を段階的に修得できるような科目配当としています。3 年次からは保健師養成課程、助産師養成課程を選択することができ、保健師または助産師に必要な専門的知識、技術及び態度を 2 年間で段階的に学ぶことができます。

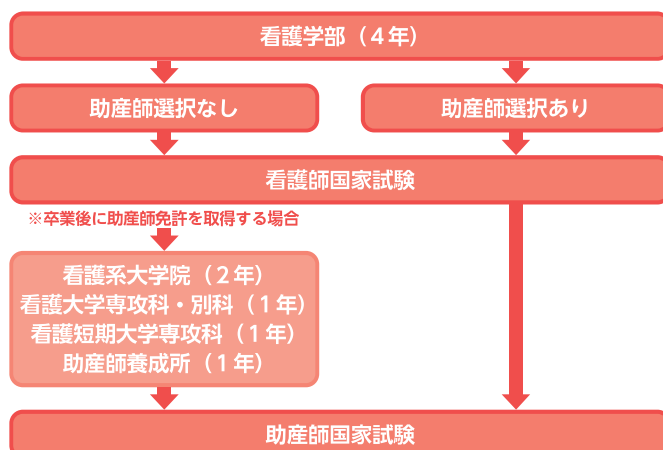
■ 保健師・助産師への道のり

保健師養成課程・助産師養成課程を選択し必要な単位を修得した学生は、看護師だけでなく保健師または助産師の国家試験受験資格を取得することができます。同年度に看護師、保健師または助産師国家試験を受験することができますが、保健師または助産師になるには看護師国家試験を合格した上で、保健師または助産師国家試験に合格する必要があります。

◆ 保健師



◆ 助産師



学びの集大成となる臨地実習を終えた看護師・保健師・助産師養成課程の学生に看護職を目指したきっかけ、今回の実習で大変だったこと、今回の実習で感じた看護職のやりがい等について、お話を伺いました。

◆ 看護師養成課程

Interview

大川 紗輝 さん

看護学部 4 年



— 看護師を目指したきっかけ

私の祖母が岩手医科大学附属病院で手術を受けたことがあります。様々な医療職の方々に助けいただきましたが、1番近くで自分の祖母の性格を理解してお世話してくださった看護師さんがとても印象的でした。親身になって支えてくださったおかげで私たち家族が乗り越えることができました。このことから看護師の存在の大きさに気づかれ、私も看護師となり地域の方々に貢献したいと思ったことが看護師を目指したきっかけです。

— 領域別実習で大変だったこと

受け持たせていただいた患者さんが私に話してくださったことの「言葉一つひとつの重み」や「その人が感じている率直な気持ち」に対して、どのように受け止めるべきか、どのように自分が返答すべきかが分からずとても難しかったです。話してくださった気持ちに対して、ただ受け止める表現だけでしか返せず、自分の語彙力の無さ等を実感しました。コミュニケーションとはいうものの、そう簡単に表現できるものではないなと改めて感じました。



点滴交換

— 領域別実習で感じた看護師のやりがいとは？

どんな風に話したり提案をしたりしても行動に移せなかった患者さんが、実習最終日に行動に移してくださったことです。また、患者さんやそのご家族が自分の思っていることや望んでいることを話してくださったこともすごく嬉しく、やりがいを感じました。一人の患者さんを受け持たせていただくのは実習ならではの経験であり、患者さんやご家族に深く関わり寄り添う経験ができました。実習で感じたやりがいを大切に、患者さんやご家族と向き合っていきたいです。

— 今後の抱負

私は、自分が「患者の家族」という立場になった経験を生かし、患者さんへの看護だけでなく家族看護もできる看護師になりたいです。患者さんの話はもちろん、ご家族の声にも耳を傾け、「個別性のある看護」につなげて看護できるようになりたいです。自分の経験はあくまで一事例であるためそれだけに捉われず、患者さんやご家族に親身になって寄り添い、それぞれの思いや困難に対応した看護をできるように経験を積んでいきたいです。



人形を用いて着替えのサポートをしている様子

山田 ひなの さん

看護学部 4 年

— 保健師を目指したきっかけ

母子が安心・安全に笑顔で暮らすことができるまちづくりに携わりたいと思い、保健師を目指しました。このように思ったきっかけは、児童虐待問題が深刻化しているなかで、妊娠期から母親と関わる機会がある保健師が母親に寄り添いながら支援することが児童虐待防止に繋がることを知り、魅力を感じたためです。



— 公衆衛生看護学実習で大変だったこと

実習の中で一番大変だったことは、健康教育の企画の立案、実施です。対象者の心に響き尚且つ頭に残る内容、そして適切な量、媒体を考えることが難しかったです。私は3歳児とその親を対象に「げんきな歯をつくろう!」と題し、仕上げ磨きの大切さなどについて取り上げました。現場の保健師さん、歯科衛生士さんにアドバイスをいただきながら、なんとか形にすることができました。今回は新型コロナウイルスの影響により、地域の方に対して実演できませんでしたが、専門家である保健師さんに見ていただき、多くの助言をいただけたため、とても貴重な経験となりました。



幼児を対象に歯磨きの仕方を教えている様子

— 公衆衛生看護学実習で感じた保健師のやりがいとは?

地域の皆様から「ありがとうね」や「頑張ってるね」と声を掛けていただいたときにやりがいを感じました。地域に出向いて住民・地域全体にアプローチができるということが保健師の強みだと思うのですが、今回の実習では何度もその大切さを感じました。実際、私は実習先で行っている事業に参加して一緒に活動しただけでしたが、終了後に地域の方々に温かい声を掛けていただき、保健師が地域に出向いて活動することのやりがいや地域の温かさを感じました。

— 今後の抱負

地域の方々に頼られ安心感を与えることができる保健師になりたいです。地域の方々が安心・安全に生活するためには、頼ることができる存在が必要だと思います。そのため、確かな知識と技術を身に付けて誠実に活動し、また、地域の方々が些細なことでも相談できるよう寄り添い、信頼関係を築き、私が居ると安心すると思っただけのような保健師になりたいと考えています。



保護者を対象に歯磨きの大切さを説明している様子

大西 千尋 さん

看護学部 4 年



— 助産師を目指したきっかけ

昨今、児童虐待のニュースが多く報じられていますが、元々子どもが好きで、小児看護に興味を持ち、看護師を目指していたので、自分にできることは何かないのかと考えたときに、助産師として親子に関わる選択肢を見つけました。親子のスタートとなる出産の現場に関わり、子どもたちが親の愛情をたくさん受けられる関係が築けるように支援していきたいと考え、助産師を目指しました。

— 助産学実習で大変だったこと

立ち会ったお産の場面です。胎盤を娩出しているときから出血が多く、胎盤が出たらすぐに出血量を測って報告しなければと考え、そこまでは動くことができました。ただ、計測した後に分娩室に戻ったら、産婦さんがショック状態で意識を失う手前の状態でした。これからどうなってしまうのかという恐怖と何もできない無力感で産婦さんの隣に立っていることしかできませんでした。お産の怖さと無事に産まれてくることの尊さを改めて実感しました。

— 助産学実習で感じた助産師のやりがいとは？

陣痛がある時に関わらせていただいた方に、産後にお会いした際、「本当に大西さんが居てくれてよかった。凄く辛かったけど、あのとき一緒に居てくれて心強かったです」と言っていて、やりがいを感じました。陣痛中、腰をさすったり、側に居てお腹の赤ちゃんと一緒に話しかけたりしているうちに、弱音を吐いたり、私に寄りかかり泣いてくださったりしました。私を信頼してくれているのだと感じ、とても嬉しかったです。同時に、この人のために自分のできることをできるだけやろうと強く思いました。その結果、その産婦さんにとって支えになったことが分かり、楽しさとやりがいを感じました。

— 今後の抱負

分娩介助実習を半分終えて、この人にお産をとってもらえてよかったと思ってもらえるような助産師になりたいと強く思うようになりました。実際にお産の現場に立ち、出産は産婦さん、ご家族にとって一大イベントであると改めて感じました。その一生の思い出に残る時間をらせていただく職業であるため、高い技術と知識を身に付け、分娩介助、産前産後のケアをすることはもちろん、ホルモンバランスが崩れやすい時期に心の支えになれるような助産師を目指したいと思っています。そのために後半の実習でも、一例一例の分娩介助を大切にして、技術、知識をものにするとともに、産婦さんへの関わり方を学んでいきたいと思っています。



超音波検査で赤ちゃんの成長を確認している様子



分娩介助

令和2年度第3回災害医療研修会が行われました

9月3日（木）、矢巾キャンパス災害時地域医療支援教育センターにおいて、災害医療研修会（初級A・B実習コース）が行われました。

この研修は、東日本大震災の経験から災害時対応を含めた地域医療支援体制の確立と地域医療支援対応医療人の育成を目的に、学生・医師・看護師・メディカルスタッフ、災害発生時に連携して活動する消防・警察・自衛隊・行政職員の方々等、災害医療に興味のある方を対象とし、平成23年度に初めて開催されてから今年でちょうど10年目となりました。今回の研修には県内の医療従事者21名が参加し、本学からは3名が受講しました。

当日は情報伝達訓練（衛星電話・トランシーバー）、広域災害救急医療情報システム（EMIS）の理解・操作、トリアージ訓練、多数傷病者受け入れのシミュレーションが行われ、参加者たちは講師の話に耳を傾け、災害医療について理解を深めました。



情報伝達訓練（トランシーバー）



トリアージ訓練

臨床研修医等宿舎新築工事の起工式が挙行されました

9月7日（月）、矢巾キャンパスのマルチメディア教育研究棟西側にある臨床研修医等宿舎建設予定地において、「臨床研修医等宿舎新築工事起工式」が挙行されました。

当日は、小川理事長をはじめとした本学関係者や岩手県、矢巾町、工事関係者等約30名が出席し、工事の無事を祈願しました。

宿舎の詳細は大学ホームページをご確認ください。



式場の様子



たまぐしほうてん
玉串奉奠



施主挨拶

令和2年度薬学部秋季卒業式が執り行われました

9月8日（火）、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、令和2年度岩手医科大学秋季卒業式が執り行われました。

式では、卒業生19名に対し祖父江学長は「これまで支えてくれたご家族・教員への感謝の気持ちを忘れず、夢に向かって頑張ってください」と式辞を述べ、小川理事長からは「諸君らに課せられた責務は重いですが、最新の薬学の知識を身に付け、患者さんの痛みを理解できる医療人になってほしい」と激励の言葉がありました。

式終了後、三部薬学部長から卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記が授与されました。



祖父江学長式辞



小川理事長祝辞



三部薬学部長による卒業証書・学位記の授与

医療専門学校歯科衛生学科のオープンキャンパスが開催されました

令和2年度岩手医科大学医療専門学校歯科衛生学科の第1回オープンキャンパスが9月13日（日）、第2回が10月3日（土）に開催されました。高校生や保護者等多くの方がお見えになり、総勢69名（第1回は51名、第2回は18名）が参加しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全8回を予定していたオープンキャンパスは8月まで開催を見合わせ、全3回の実施予定となりました。当日は、検温と体調チェック、マスク着用にご協力いただき、密接しないよう4班に分ける等の感染対策を講じました。また、歯科衛生士の仕事紹介や施設見学、体験実習、在校生とのフリートーク等が行われ、参加者は本校の魅力を感じ、将来の進路を決めるための有意義な機会となったようでした。

第3回オープンキャンパスは12月5日（土）を予定しています。



体験実習



在学生とのフリートーク

令和2年度事務局研修会が実施されました

9月15日（火）・17日（木）、大堀記念講堂において、「岩手医科大学内丸地区再整備計画について」をテーマに令和2年度事務局研修会が行われました。

本研修は、「岩手医科大学事務局職員人材育成基本方針」に基づき、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、職員に必要な知識及び技能の習得、その能力及び資質の向上を目的としています。

研修会の講師は、法人事務部総合移転計画事務室の古内総括課長が務め、受講者は本学の移転事業の歴史や内丸地区跡地の活用検討内容等について理解を深めました。



研修会講師を務める古内総括課長

清掃及びリネン委託業者に対する感染対策研修会が実施されました

9月17日（木）・24日（木）、附属病院10階研修室において、附属病院に勤務する清掃及びリネン委託業者（協栄テックス、東京美装興業、ワタキューセイモア）を対象とした感染対策研修会が実施されました。

講師は感染制御部の嶋守主任看護師が務め、当院の感染対策システムや院内清掃のポイント、手指衛生について研修が行われました。

70名の受講者は、患者さんを院内感染から守るため、熱心に聴講していました。



手指衛生が不十分な部位を確認する様子

令和2年度岩手DMAT隊員養成研修が行われました

9月24日（木）・25日（金）、矢巾キャンパス災害時地域医療支援教育センターにおいて、岩手DMAT隊員養成研修が行われました。

本研修は、災害急性期（発災後48時間以内）における被災地内での医療の確保を図るため、救出・救助部門と連携して可及的速やかに活動するための機動性を持った災害派遣医療チーム（DMAT：Disaster Medical Assistance Team）の隊員の養成を目的とした研修です。当日は、災害拠点病院及び二次救急病院で働く医師・看護師・薬剤師・事務員等、総勢21名が参加しました。

研修初日は、本県における災害医療対策やDMATの意義、職種別での講義・演習が行われ、それぞれの専門性に応じた役割を学びました。2日目は、実際の災害を想定した救護所運営訓練が行われ、本部と現場救護所の情報共有や運営方法等を確認しました。参加者は、災害時に傷病者に対する救命処置等の活動が的確に行えるよう知識・技能の修得に励みました。



現場救護所での模擬診療



グループ毎の救護所運営訓練



歯科技工部の大川 義信 歯科技工士が 全国歯科技工士教育協議会功労賞を受賞しました

歯科技工部の大川義信歯科技工士は、長年にわたり歯科技工士養成校にて教育に励まれ、その功績が顕著であったとして、全国歯科技工士教育協議会功労賞を受賞しました。

大川歯科技工士は、本学附属病院歯科技工部において、12年間の実務経験を積んだ後、教員に任用され、以後25年にわたり岩手県唯一の歯科技工士養成校の教員（その内、教務主任は7年間）として、歯科技工の知識や技術の教育はもとより、豊かな人間性を兼ね備えた医療人を育てるべく尽力されました。附属病院で培った豊富な経験と高いスキルに裏打ちされた指導には定評があり、スタッフの調整能力にも長け、技術や材料の進歩による歯科技工物製作工程の変化にも遅れないよう、新しい技術の導入にも力を入れられました。教育課程の弾力的な運用により効果を上げられ、これまで多くの歯科技工士の輩出に尽力されました。



左から：三浦歯学部部長、大川歯科技工士

第36回日本DDS学会学術集会・若手ワークショップに 医療薬科学講座創剤学分野の杉山 育美 助教らのテーマが採択されました

第36回日本DDS (Drug Delivery System) 学会学術集会において、公募型の若手ワークショップが企画され、薬学部医療薬科学講座創剤学分野杉山助教らのテーマが採択されました。8月28日に神戸学院大学で開催された学術集会にて、「高齢化社会に資するDDS開発がもたらす新規治療法へのブレイクスルー」というテーマで、神戸薬科大学の田中晶子助教とともにオーガナイザーを務めました。本学会は新型コロナウイルスの影響で6月開催予定を8月に延期し、オンサイト、オンライン併用のハイブリット型の新たな形で開催されました。

ワークショップでは異なる専門性をもつ女性研究者による最先端の研究講演がなされました。鼻腔内投与によるペプチドの脳内送達（神戸薬科大学 田中助教）、iPS細胞を用いた血液-脳関門モデル（医薬基盤・健康・栄養研究所 山口朋子氏）、経皮吸収型製剤の設計に向けたケミカルイメージング（資生堂 藤井美佳氏）、ノロウイルスワクチンの経皮・経口送達（武田薬品 水野友美子氏）、リポソームDDS製剤を用いた治療戦略（杉山助教）の5講演が行われ、会場内からだけでなくオンライン参加者からも多くの質問があり、活発な討論が行われました。

このワークショップには、「DDSに魅せられた女性研究者」という副題がつけられており、基礎研究分野においても女性研究者の活躍が垣間見える充実した内容でした。また、この副題にはオーガナイザーらによる2つの思いが込められています。ひとつは、薬学生に対して病院や薬局と同様に将来の選択肢として研究者という道があり、特別なことではないという後輩たちへのメッセージです。もうひとつは、女性が非常に少ない研究の世界でも、性別や肩書き、置かれている立場を越えて能力ある研究者が研究し続けられるよう、互いに支え合い・補い合える環境を作り、ジェンダー平等を実現しようというSDGsの達成を目指す全ての研究者へのメッセージです。



左から：田中助教（神戸薬科大学）、杉山助教

コロナ禍で開催されることになった本学会は感染拡大の防止のために様々な工夫が施されていました。既存の概念にとらわれず柔軟に対応していくことの大切さを実感した本学会でのワークショップは、フレッシュな感性に包まれた新しい時代を迎えるにふさわしいものでした。

（文責：薬学部医療薬科学講座創剤学分野 教授 佐塚 泰之）

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第36回目の御芳名紹介です。(令和2年7月1日～令和2年8月31日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等（1件）

<20,000,000>

株式会社 こすかたサービス（岩手県紫波郡）

●個人（2件）

<100,000>

山田 哲夫（医20）

<ご芳名のみ>

澤田 智史（教職員）

区 分	申込件数	寄付金額（円）
圭 陵 会	1,078	644,785,089
在 学 生 ご 父 母	910	519,780,000
役員・名誉教授	98	124,040,000
教 職 員	261	35,062,000
一 般	139	46,795,010
法 人 ・ 団 体	381	1,062,084,000
合 計	2,867	2,432,546,099

(平成26年6月1日～令和2年8月31日現在)

「今夏の節電活動」の結果について

職員の皆様方におかれましては、日頃より省エネ活動にご協力をいただき誠にありがとうございます。今夏も「夏季の節電活動」を実施し、期間内における電力使用量を取りまとめましたので、集計結果について、お知らせ致します。

夏季の節電行動計画概要

【実践期間】 令和2年6月1日～8月31日まで（クールビズは9月30日まで）

【削減目標】 前年度電力使用量の1%削減

【実践項目】 冷房温度28℃設定（病棟・診察室等は弱冷房の励行）、不要照明の消灯、待機電力の削減、クールビズ活動。

節電行動計画の実施結果

《結果》

内丸キャンパス、本町キャンパス、医療専門学校の3施設が削減目標を達成致しました。

番号	施設名	前年度比	番号	施設名	前年度比
①	内丸キャンパス ※1	－ 59%	②	矢巾キャンパス (大学) ※2	＋ 4%
③	本町キャンパス	－ 30%	④	医療専門学校	－ 10%
⑤	やはばなかよし保育園 ※3	＋ 53%			

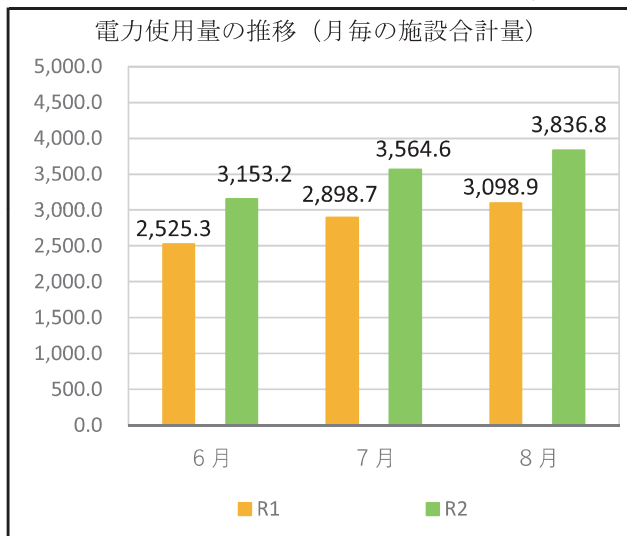
※1 内丸メディカルセンター、木の花会館含む。R2年度分より、使用を停止した東病棟を除く。

※2 A・B敷地の施設全て含む。

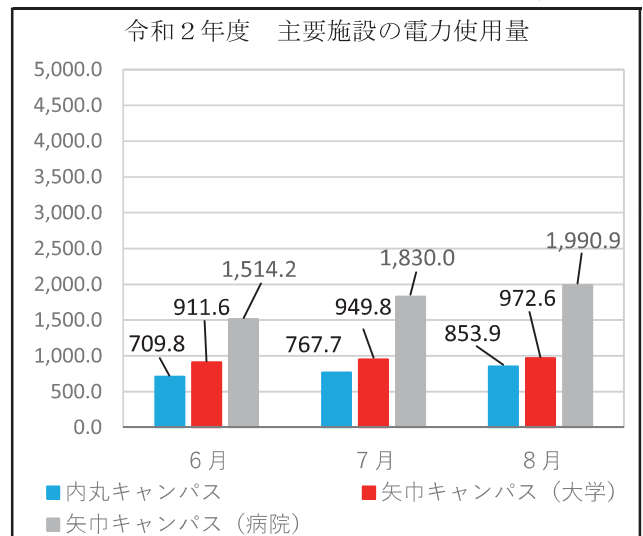
※3 R2年度より、やはばなかよし保育園追加。

《電力使用量の推移及び主要施設の電力使用量》

単位：千Kwh



単位：千Kwh



《考察》

今夏は、内丸キャンパス及び本町キャンパス並びに医療専門学校が、前年度電力消費量1%削減の目標を達成致しました。目標を達成した要因としましては、内丸メディカルセンター及び本町キャンパスは、附属病院の移転に伴い利用者が減少したことがあげられます。また、医療専門学校の目標達成要因としては、歯科技工学科の閉科に伴う学生数の減少があげられます。目標を達成出来なかった大学施設につきましては、事務部門の移転に伴い利用者の人数が増加したことや、新型コロナウイルス感染予防対策として換気を行うため、窓を開けて空調機を運転していたことから空調負荷が増え、電気使用量が増加したことが要因としてあげられます。

《まとめ》

矢巾キャンパスに附属病院が移転して、1年が経過しました。今夏の節電活動期間中の大学全体での電気消費量は昨年と比較して増加しており、今後はより一層の省エネ対策が必要となります。今後も不要な照明の消灯や空調設備の停止など、可能な範囲で省エネ活動にご協力をお願い致します。

スポット看護学講座

共通基盤看護学講座 助教 野里 同



適切な罨法（あんぼう）について

1. 罨法とは

罨法と言われてもピンとこないかもしれませんが、発熱や急性炎症に対するアイスノンや冷えピタ（冷罨法）、寒気や慢性疼痛に対する湯たんぽや電気毛布（温罨法）の事です。罨法は看護職のみならず、一般の方でも日常的に行うケアとなるため、簡単な援助技術に思われるかもしれませんが、しかし、高齢者や小児など皮膚が脆弱な患者は凍傷、低温熱傷といった皮膚傷害を起こすリスクが高くなります。また、誤った罨法の方法を選択すると治癒遅延の原因にもなります。そのため、看護師が行う罨法は対象者とその病態を十分に理解し、根拠をもって行う必要があります。非常に奥が深いケアだと感じています。そして今回は、本講座で取り組む研究テーマの一つである「看護ケアのエビデンスの追求」から罨法の新たな知見の一部をご紹介させて頂きたいと思います。

■カテコラミン製剤の点滴漏れに有効なのは温罨法？冷罨法？

血管収縮作用のあるカテコラミン製剤はショック状態にある患者など、臨床でも多く使用される薬剤の一つです。このカテコラミン製剤が漏れた場合、局所の血管収縮で虚血が生じ皮膚傷害が起こることから、血管の拡張を目的とした温罨法が推奨されています。しかし、温罨法を実施しても皮膚傷害が継続することが少なくありません。そこで、私たちはラットの皮下にカテコラミン製剤を投与し組織学的な変

化について検討を行いました。その結果、カテコラミン製剤が皮下に漏れると急性炎症が起こり、その中でも血栓の形成による循環障害が生じている症例が潰瘍を形成することがわかりました。一般的には、カテコラミン製剤の漏れには温罨法が推奨されています。しかし、血栓の形成につながる急性炎症を抑制するには冷罨法が有効である可能性が否定できません。そこで、私たちはラットの皮下にカテコラミン製剤を投与した後、温罨法または冷罨法を実施した群に分けてその有効性についても検討しました。その結果、点滴漏れを起こした直後は、温罨法より冷罨法を実施した方が傷害を予防できる示唆が得られました（図参照）。これらの知見を基に、今後もカテコラミン製剤の漏れに対する適切なケアについて検討を続けることは非常に重要だと考えております。

このように、有効性に疑問を感じるケアについて再考することは、「確かなエビデンスに基づく看護ケア」の確立につながるため、今後も継続し取り組んでいきたいと思っています。

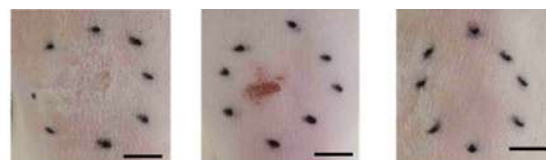


図 カテコラミン製剤の点滴漏れに対する罨法の効果
() は潰瘍形成した症例数、BAR=1cm

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰 佐藤 真結美
影山 雄太 工藤 静子
松政 正俊 工藤 正樹
齋野 朝幸 及川 弘美
藤本 康之 安保 淳一
白石 博久 佐々木 忠司
成田 欣弥 畠山 正充
遊田 由希子 藤村 尚子
佐藤 仁 武藤 千恵子
小坂 未来 高橋 慶
藤澤 美穂

編集後記

暑かった夏も終わり、季節はすっかり秋となりました。稲刈りが終わった田んぼや、山の紅葉を朝晩の通勤電車の窓から見ると、より秋の深まりを感じる今日この頃です。

矢巾新病院が開院してから2回目の秋を迎えます。今年は病院機能評価があったり、コロナウイルスの流行により様々な影響が出たりと色々大変な年でしたが、残りあと2ヶ月、気を抜かず最後まで頑張りたいと思います。

(編集委員 藤村 尚子)

岩手医科大学報 第529号

発行年月日 令和2年10月31日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 法人事務部 総務課

TEL: 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX: 019-907-2448

E-mail: kouhou@j.wate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL: 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp